

みことばは私の旅の道のともしび

旅から帰った若者は旅に出る前と違う人になっている—そんなことわざが中国の古い格言にあるそうだ。

数年前、40歳を過ぎ、もはや決して若いとは言えない、とある牧師が、聖書を研究するために、いつ帰るともわからない海外留学という旅に出た。

英語力は、まったくのゼロではないもの、ネイティブと対等にやり取りできるレベルではない。妻と子供たちには至っては完全にゼロ。周りの人たちから心配されながら、聖書のみことばと約束だけを頼りに、北米での留学生活が始まった。

カナダ・バンクーバーの空港に到着すると、いきなり、妻と子供たちの分のビザがもらえないという困難が訪れる。家族であることを証明する書類がなかったので、ビザが発行されなかったのだ。このままだと、妻と子供は6ヶ月以内に帰国しなければならない。

12月のバンクーバーは午後5時になればもう日も暮れて真っ暗になる。それにシトシト雨混じりの雪が降っていた。

ビザの件で、移民局に電話しても、待てども待てども、全然オペレーターに繋がらない。

一瞬、もう留学はやめて日本に帰ろうかな、という思いが脳裏をよぎった。

しかし、そう思った瞬間、ある聖書のみことばを思い出した。

「神は耐えられない試練にはあわせられない」（第一コリント10：13）。

翌日から移民局に電話をし、**待つこと3時間**、ようやくオペレーターに繋がった。その後、日本から必要書類を取り寄せたり、大雪の中、現地の領事館に書類を取りに行ったりして（**大雪で横転したバスも目撃する**）、数週間かかって、ようやく家族のビザ申請の手続きがひと段落した。

ひと段落して一息ついたら、「やっぱり車があったらいいね」と妻と話し合い、中古車自動車を探すことにした。しかし、カナダの中古車市場は逼迫していて、結構な値段がする。昔、留学していた先輩牧師から、現地で中古車をタダのような値段で譲ってもらったとか、そんな話を聞いたことがあるが、私にはそんな奇跡は起きないだろうという

確信のようなものがあつた。そこで、妻と、なんとか私たちにでも手の届く値段の車が与えられるように、と祈つたのだった。

すると、驚くべきことに、**その数時間後に奇跡が起きた**。何かの用事で外出していた折、妻から電話があり、「ものすごくいい車を SNS で見つけた」と知らせが入った。早速 SNS をチェックすると、留学先の学校の学生さんが帰国するので、破格の値段で車を掲載していたのだった。早速連絡を取り、その学生さんに会いに行く。すると、なんとその学生さんの住んでいる家族寮は、私たち家族が翌月から入居する予定の部屋であつた。そして、帰国するので、良かったら食器とかトースターとかみんな置いていこう、と言ってくれたのだった。

この日ほど神様がともにおられる、と強く感じた日はない。そして、**神様がともにおられるのなら、これから先どんな困難があっても必ず乗り越えていけると**、そう強く感じた時だった。